

沖縄県宮古島市狩俣地区

**自治会からスタートした
新しい働き方のご紹介**

令和6年6月13日

労働者協同組合 かりまた共働組合

沖縄県宮古島市狩俣地区の紹介

- ・ 宮古島市の北端に位置する三方を豊かな海に囲まれた208世帯・住民460人の少子高齢化の過疎集落。



「自治会創立122周年」2020年4月、自治会の執行部が40代に若返り、持続可能な地域づくりを目指し狩俣版SDG s 新規事業計画書を作成、『つなぐ心』を合言葉に『幼・老・青・般』の優先順位で活動を展開中。

2019ワークショップ In 狩俣



子どもが少ない

かりまた
「狩俣版 SDGs」 → 目標設定 2025年3月

私たちがこれからやりたいこと

空き家のリフォーム
病院の誘致で地域活性化

みんなで遊べる公園をつくり
イベントをたくさんしたい

ハイビスカスで花見
打ち上げ花火大会
餅つき大会がしたい

保育園・学童をつくる
歴史資料館がほしい
若い人を増やしたい
住む場所を作りたい

課題解決型エコハウスで
新しく住む場所を作りたい
EV車に乗りたい
農業を頑張りたい



『狩俣版SDGs』の5つのテーマ



狩俣まるごと学びの場に



脱炭素社会を目指す



小さな幸せをふやそう

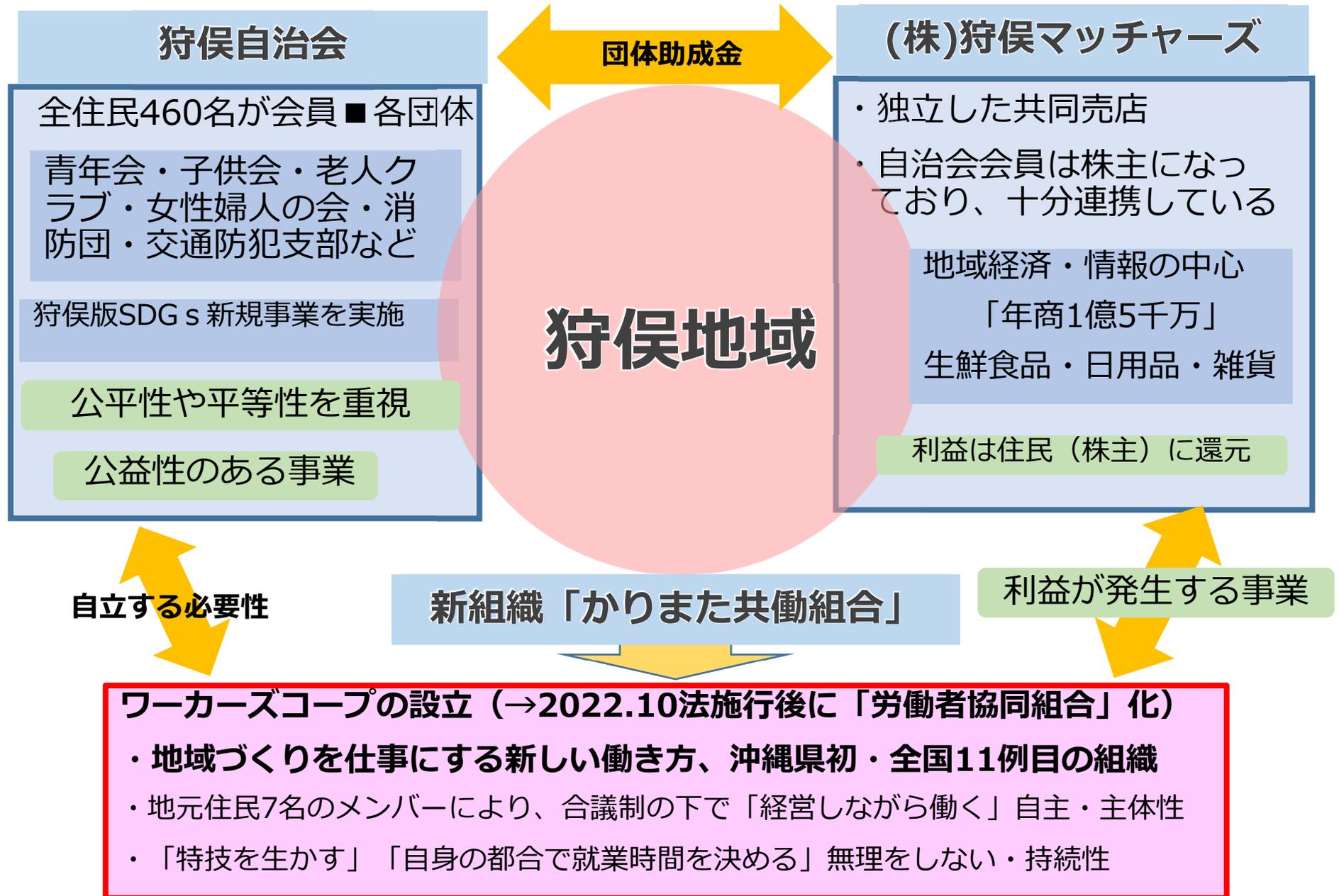


豊かな海を次世代へつなぐ



餅屋システムで経済循環

■ 組織関係図・つながる体制と役割（主な3つの組織）



Q1・なぜ自治会から
協同労働なのか？

自治会の活動において
公益性・平等性に疑問
が生じ、継続性に不安

自治会に代わる新しい
組織の必要性➡NPO?

生活困窮・高齢者への お弁当配食サービス

①お弁当代1個300円×3=900円×20日→18,000円

②厨房使用 1,000×20=20,000円 ③材料費900×20=18,000円 ④人件費1名1日2時間×20日=40,000円

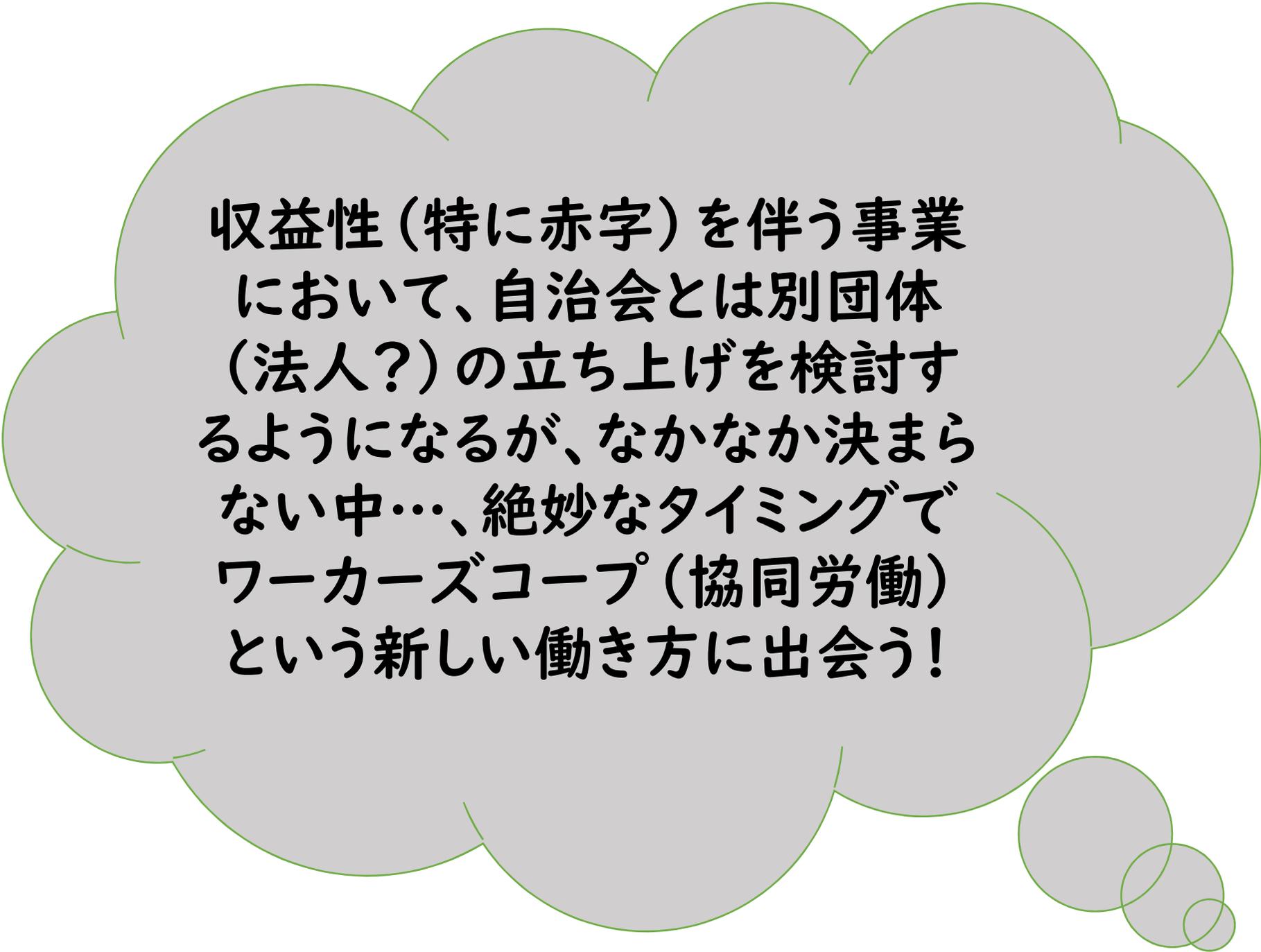
6万/月×12ヵ月=-72万(年間赤字)

高校生・高齢者への通 学・通院サポート(EV)

①会費5,000円×5=25,000円×10ヵ月→=25万円

②充電 12万円 ③リース費59,000×12≒70万円 ④保険料・車検代・諸経費 48万円 ≒130万円

≒-105万(年間赤字)

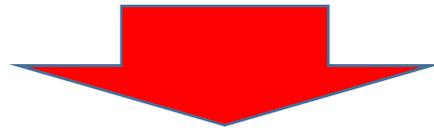


収益性（特に赤字）を伴う事業
において、自治会とは別団体
（法人？）の立ち上げを検討す
るようになるが、なかなか決まら
ない中…、絶妙なタイミングで
ワーカーズコープ（協同労働）
という新しい働き方に出会う！

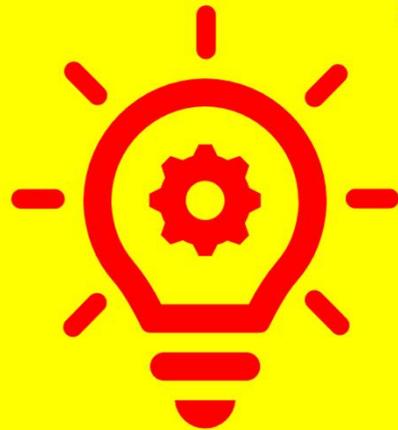
労働者協同組合：協同労働との出会い

地域づくりを仕事にする新しい働き方。

働く人たちが出資して組合員となり、組合員一人ひとりの意見を反映させながら運営し、ともに働く



狩俣に



ピタリ！

2021年

- 11月3日 第1回学習会

2022年

- 6月18日 ワークスコープ連合会総会参加
- 11月7日 かりまた共働組合創立総会

2023年

- 6月 ワークスコープ連合会へ正式加盟
- 9月 『空き家対策』『メタバース』事業開始
- 11月 『土づくりセンター』事業開始
- 12月 空き家シンポジウム開催

2024年

- 1月 『JALパック:地域づくりツアー』
- 3月 台湾視察『リトル台湾』『長栄大学』
- 4月 狩俣モリンガプロジェクトキックオフ
- 5月 空き家サミット(台湾×アメリカ×ブラジル)

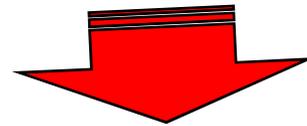
かりまた共働組合の紹介

かりまた共働組合の業務分担 ➡ チーム制を導入
2024.4.26 時点 組合員数 7名 外部監事1名
むすびや（1名）・いんぱり（2名）・ばぎだま（4名）

- ▶ 「むすびや」チーム *おにぎり・惣菜・地域食堂
- ▶ ダイビング業者・生活困窮者・高齢者へのお弁当配達など
自治会行事（海神祭・敬老会）などのオードブル
- ▶ 「いんぱり」チーム *海と畑を中心とした事業・モリングア
- ▶ モズク・魚の加工販売（地元特産品の6次産業化）
- ▶ いんぱり＝地元の言葉で「いん＝海」、「ぱり＝畑」
- ▶ 「ばぎだま」チーム *EV関連事業・餅屋システム運営管理
- ▶ キャンプなどのイベント企画・運営 ・事務的管理業務
- ▶ ばぎだま＝地元の言葉で「分け合い」、「支え合い」

「餅屋システム」のご紹介

「餅は餅屋」その道のプロがいるのなら、任せてしまった方がいいというたとえ。昔は餅は自分の所で作るものとされていた



協同労働で『地域の困りごと』を仕事にする
『地域の人材・素材を最大限活用』

餅屋システムで地域内経済の循環を推進！

住み続けられる地区へ 協同労働



住民から入居のあ 豊漁 沖縄県宮古島市

雇われるのではなく、地域や社会に必要な仕事を自ら作り、自ら働く。「協同労働」と呼ばれる働き方に法人格を与える労働者協同組合法が10月に施行されました。SDGs（持続可能な開発目標）が目指す課題解決や働きがいに通じる動きとして注目されています。
 (編集委員・沢路毅彦)

魚の直売・弁当宅配：始めは自治会で

「魚の直売をこれから始めます」
 9月下旬の午前11時過ぎ、沖縄・宮古島北部の狩俣地区に散らばると、地区の集落センターに続々と人が集まってきた。売られていたのはミシюн。沖縄ではなじみのあるイワシ系の魚だ。酢漬けにしたり唐揚げにしたりに食べられる。500円。飛ぶように売れている。
 ミシюнはスーパーで売られているが、大量にどれと、捨てられり無料で配られたりして、少しでもお金にしよと、狩俣自治会の役員が協力して直販事業を始めた。会長を務める國仲義隆さん(57)は5歳まで電力会社に勤め、島外でも働いた。地元へ戻り2020年から、活動をひたしている。
 自治会は今年12月周年を迎えたが、少子高齢化が止まらない。1969年に1500人だった地区の住民は現在約460人。
 若者が住み続けられる地域にしようと義隆さんたちが手取り組んだのが、幼稚園の復活だ。入浴者が宮古島の基準を下り休園だった狩俣保育園に園外での幼稚園を保育園に通わせている保護者と話し合いを重ね、21年度再開にきつた。
 預かり保育を利用する保護者から「お弁当のサービスがほしい」という声があがり、今年5月から注文に応じてお弁当を幼稚園に届けサービスも始めた。ほかに、市中部の学校や病院に通う高校生も高齢者が相乗りできるサービスを20年12月から展開。使用する電気自動車(EV)の電気は太陽光発電で賄う。



狩俣自治会の國仲義隆会長

労働者協同組合法が今月施行

協同労働は、失業対策事業に起源を持つ「カーズコープ」や、生活ラフ生協が母体となった「ワーカーズ・コレクティブネットワーク」(KJ)の活動でうたわれてきた。
 協同労働そのものに適した法人格はないため、実際は金組やNPO法人として運営されてきた。「協同労働(きわむ)い法人格の法制化」を。関係者による長年わたる働きかけの末、20年12月に議員立法で労働者協同組合法が成立した。
 第一案では労働者協同組合の目的を、多様な労働の機会を創出し、地域の多様な需要に応じた事業を行うこと、持続可能な運営を目的とする。協同労働の団体は、組織委員会を組織法に基づき、組合に移行できる。
 協同組合の目的は、組合員の5分の4以上が労働者の場合も変わらない。ただ、経営者としての側面が強調される。安

労働者協同組合と他の法人との違い

厚生労働省が作成したパンフレットから

	労働者協同組合	株式会社	NPO法人
目的・事業	持続可能な地域社会を実現する事業(労働者派遣事業以外)	定款に掲げる事業の営利の追求	特定非営利活動(20分野)
議決権	1人1票	出資比率による	原則1人1票
主な資金調達法	組合員による出資	株主による出資	寄付
配当	従事した程度に応じて	出資分に応じて	できない

「地産地消」の仕事組合で
 協同労働の特徴は、地域に必要な仕事を自分たちで作る、雇われるのではなく、一人ひとりが主体的に働くこと。今月から施行された労働者協同組合法で、働く人が自ら出資し、意見を反映し、事業を共に担うことが明確にされている。
 この理念を表現してきた団体のひとつが、日本労働者協同組合(ワーカーズ・コレクティブ)。事業規模は3500億円(20年度)。約1万6千人が働いており、介護や子育て、清掃、若者支援などの事業をそれぞれの地域で担っている。義隆さんたちは昨年11

として取り組む風景を感じようになった。すべての住民が事業の恩恵を受けるわけではないため、理解を広げにくい。役員もいすれい。義隆さんの妻、千さん(52)はすぐさま「社長がいることで、働く人が同じ立場で発言できる組織が作れた」といっている。
 千明さんは、お弁当を作るチームのリーダー。幼稚園や高齢者の自宅に配達したり、行事用のオードブルを作ったりしている。「ついでに食材があるから、なんのを作ってみよう自分たちで話し合っただけです」「地産地消も大にしています」
 今回の協同労働は、義隆さんたちが労働者協同組合としての登記を準備しており、11月にも実現された。今年4月には現団体を作り、相乗りする自治会の枠組みで協同組合の活動と別であることをいっせいに意識しているのは、千さん(52)は、地産地消を測っていく。働きの報酬は時給1千円、世界の現在の最低賃金の3円を上回る金額だ。

豊漁で(10t)廃棄予定だった宮古島産みじゅん 1袋1,000円で販売(5kg)*生の状態

さらに、下処理してパック販売(600円)

残りは、冷凍保存し食材として利活用!



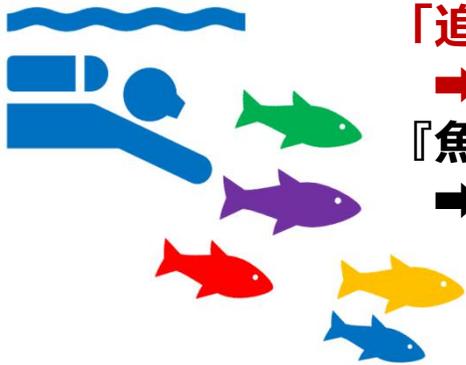
むすびや：地域のニーズに対応したお弁当・惣菜づくり

- 1.高齢者・生活困窮者へのお弁当配達**
- 2.シュノーケル・ダイビング業者（池間島）への注文配達**
- 3.自治会行事（海神祭・敬老会・各種会合）オードブルなど**
- 4.こども食堂（夏休み期間中：朝食のみ）**
- 5.学校行事・地域行事と連携した惣菜などの提供**
- 6.地域外への食材提供**
 - ・バスケット協会　・防犯協会　・西辺小　・池間小
 - ・長栄大学（料理教室など）　・平和団体キャンプ（V対応）
 - ・ゲストハウスと連携した食事提供　・視察研修等の対応
 - ・産業まつり　・市主催「しまさんマルシェ」出展*





いんぱり：モズク・追い込み漁を中心とした海産物の6次産業化

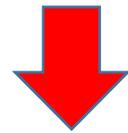


「追い込み漁」新鮮でおいしい魚が売れない…

➔ これまで捨てていた魚を共働組合で買い取り

『魚は食べたいけど家で魚を捌くのが面倒だなあ…』

➔ 共働組合で捌き、から揚げなどにして販売



「生産者」収入増につながり「消費者」にも喜ばれる

- 1.モズクの注文販売（全国発送）、モズク直売会（限定品）
- 2.漁船を利用した周遊ツアー（シュノーケル・釣り体験）
- 3.追い込み漁の雑魚の卸販売（むすびや連携）



ばぎだま：EV送迎・地域清掃・キャンプ、研修視察対応など



1. 高校生の通学、高齢者の通院支援（EV電気自動車）
2. 高齢者いきいき100歳健康体操（宮古島市・社協と連携）
3. 空き家対策・脱炭素先行地域関連事業（自治会と連携）
4. 紹介活動（コープ・県内外議会・大学・民間企業など）

事業計画

令和6年度「むすびや」「いんぱり」「ばぎだま」事業

事業1：配食を中心とした弁当づくり【むすびや】

事業2：狩俣産もずくの販路拡大【いんぱり】

事業3：餅屋システム事業【ばぎだま】

- ・空き家の整備・活用、移住促進（自治会と連携）
- ・おごのり、モリンガ事業の定着化

「かりまた共働組合」の安定した組織づくり事業

- ・土づくり（市と連携した循環型土づくり事業）
- ・ネイチャーポジティブ型6次産業化推進事業
- ・地域課題解決 ・体験型企業研修・キャンプ誘致

人材育成・過疎対策・伝統継承の3本柱

■ 地域をつなぐ6次産業化の推進

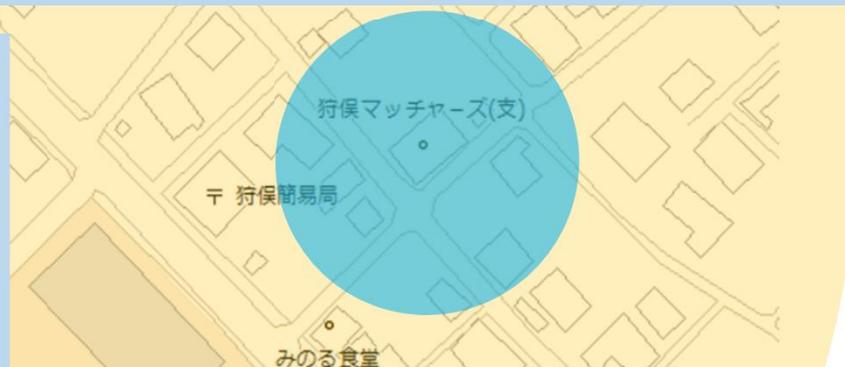
- ・ 追い込み漁とモズクを中心に観光とリンクした海事業。農業分野においても組織のメリットを活用し所得の拡大・安定化を図る。

■ 3本柱をミックスし課題解決へ

- ・ 常に地域の将来や課題についてみんなで話をすることを通して、随時発生する地域の課題について対策を考え、取り組んでいく。

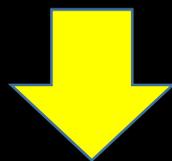
■ 空き家・空地の活用、移住促進

- ・ 餅屋システムを活用した住宅関連の事業を行う。
- ・ 「ともに暮らしたい」と思える人を積極的に増やし移住を促す。



かりまた共働組合の理念

新しい働き方で
小さな幸せをもっと。



「地域をつなぐ」

ご清聴ありがとうございました。

『たんでいがーたんでい』